

平成 30 年度 1 級管工事施工管理技術検定実地試験
解答速報（解答例）

一般財団法人 地域開発研究所

【問題 1】（必須）

設問 1	解 答 例	
(1)	(イ)	別紙-1 参照
	(ロ)	70 [ℓ/min]

設問 2	適切でない部分の改善策 例
(2)	排水横枝管に 8 個の大便器が接続されているので、最下流の器具排水管接続直後より逃がし通気管を取り、ループ通気管に接続する。
(3)	シャッターの取付けは、吹出し気流や騒音を考慮して、開口を反対向きとし、ダクトの気流を開口と逆方向から受けるように取付ける。
(4)	防湿のため、グラスウール保温筒にポリエチレンフィルム 1/2 重ね以上巻きを施し、その上からアルミガラスクロス巻きを行う。
(5)	消火ポンプ吐出側の補給水配管接続点と逆止弁の間から配管を分岐し、定格負荷運転時のポンプ性能を試験するため、流量計を付けた試験配管を設ける。

【問題 2】（選択：問題 2 と問題 3 の 2 問うちから 1 問を選択）

問題 2	解 答 例
(1)	冷凍機に接続する配管は、配管の荷重が直接機器本体にかからないよう支持し、保守点検が容易に行えるようフランジ接合とする。
(2)	直管部分の長い箇所は、配管の温度変化による伸縮量を算定し、複式又は単式ベローズ型伸縮管継手を設けて配管する。
(3)	吊りボルトの長さが短い場合は、アイボルト、鎖等で吊る。
(4)	横走り配管には空気抜きが容易に行えるよう、先上がり又は先下がりの適切な勾配を確保する。

【問題3】（選択：問題2と問題3の2問うちから1問を選択）

問題3	解 答 例
(1)	貯湯槽の断熱被覆外面から壁面までは、点検用スペースとして450mm以上の距離が確保できるように設置する。
(2)	直管部分の長い箇所は、エルボを使用したスイベルジョイントを設けて配管する。
(3)	吊りボルトの長さが短い場合は、アイボルト、鎖等で吊る。
(4)	上向き供給方式では、給湯管は先上がり勾配で、返湯管は先下がり勾配で配管し、立て系統の頂部の空気だまりには自動エア抜き弁を設ける。

【問題4】（選択：問題4と問題5の2問うちから1問を選択）

設問 No.	解 答 例
設問 1	① → ② → ③ → ⑤ → ⑥ → ⑦ → ⑧
設問 2	別紙-1 参照
設問 3	2日
設問 4	人員や機材等の量の平準化を図るため、作業を進めるために必要な人員や機材等を各作業について日々の累計を算出して積みかさね、作業の改善や問題発見のために作成する。
設問 5	別紙-1 参照

【問題5】（選択：問題4と問題5の2問うちから1問を選択）

設問 No.	解 答 例
設問 1	(1) A 硫化水素
	(2) B 3
	(3) C 技能講習
設問 2	(4) D 1
	(5) E 保護

【問題6】（必須）「施工経験記述」

省 略

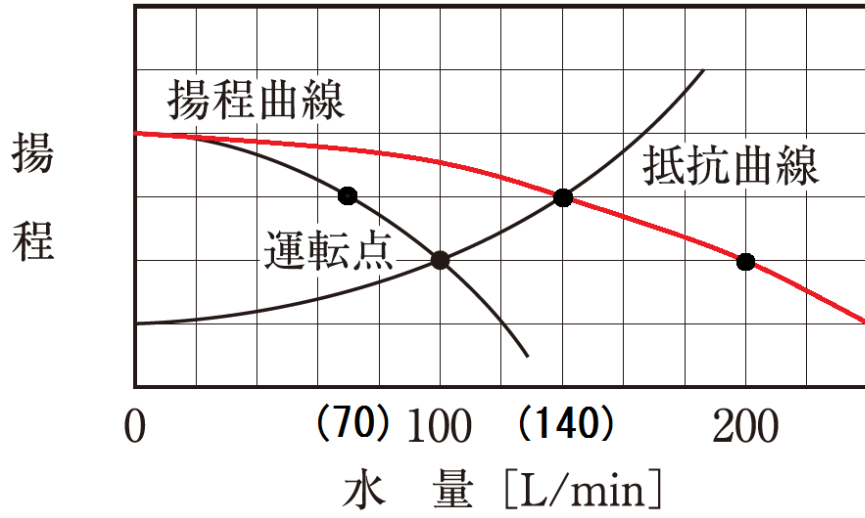
お断り：

本解答速報は、当研究所が自らの理解に基づいて一つの解答例として作成したものです。筆記試験の性格上、複数の正解が存在するものと考えており、唯一の解答としてお示しするものではありません。また当然に、正解を保証するものではなく、本解答例と異なることで受験者の皆様のご解答を否定するものではありません。

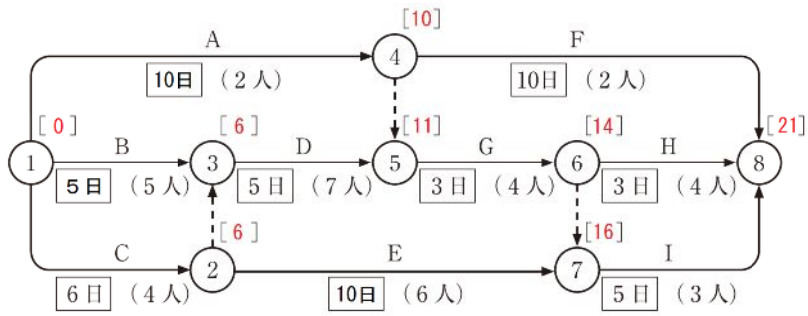
ご質問については一切お答えしかねますので、ご了承ください。

詳細は、「1級管工事実地試験問題解説集 2019年版」（準備中）に掲載いたします。

* 【問題 1】 [設問 1] (1) (イ)



* 【問題 4】 [設問 2]



* 【問題 4】 [設問 5]

